

糖尿病医療の多様化と日本糖尿病療養指導士の役割

◎宇都宮 一典¹⁾

医療法人財団慈生会野村病院・日本糖尿病療養指導士認定機構理事長¹⁾

2型糖尿病は遺伝的な素因を基盤として、臍島におけるインスリン分泌不全と内臓脂肪型肥満によるインスリン抵抗性によって発症する。従来、日本人の糖尿病はやせ型でインスリン分泌不全が特徴であり、インスリン抵抗性を主とする欧米人とは病態が異なると考えられてきた。しかし、我が国における糖尿病の増加の要因には、食生活の変容に伴った内臓脂肪型肥満があり、インスリン抵抗性が大きく関与している。このことは、糖尿病合併症の疾患構造の変化に如実に表れている。これまで日本人の合併症は細小血管症が主体であったが、近年心血管疾患に代表される大血管症が増加しており、その背景にはインスリン抵抗性を主病態とした糖尿病がある。加えて、患者の高齢化によって、加齢に伴う臓器障害が重なり、血管合併症は多彩な病像を呈するに至っている。

一方、血糖管理に関わる機器の進歩は著しい。特に、CGM (continuous glucose monitoring) システムは血糖の変動を点から線に繋げることによって、糖尿病治療にパラダイムシフトをもたらしたと言ってよい。血糖は従来想像されていた以上に複雑で、予見しがたい動きをしている。糖尿病治療の目的は、合併症の発症・進展阻止と健康寿命の延伸にあることは言うまでもない。そのためには、かかる患者の病態、年齢構成ならびに背景をなす生活習慣の多様性を踏まえ、治療法の個別化が必要である。真の個別化を実践するためには、患者のニーズを的確に把握する専門職としての技量が問われるのである。

日本糖尿病療養指導士(CDEJ)は、メディカルスタッフにおける糖尿病のエキスパートとして、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士を対象に、日本糖尿病療養指導士認定機構が認定する資格である。規則には「糖尿病とその療養指導全般に関する正しい知識を有し、医師の指導の下で熟練した療養指導を行うことのできる医療従事者」と謳われており、異なった職種の見点を交え、チーム医療を先導し、展開することが期待され、現在の糖尿病診療には欠かせない存在となっている。2000年の機構設立当初、CDEJには糖尿病専門医療施設で、病棟や外来診療における患者教育・療養指導に従事するロールモデルが想定されており、機構の規約もこのイメージに沿って策定されている。中でも、「医師の指導の下」での活動であることが厳格に求められてきた。これはメディカルスタッフが医師の視野から外れ、偏った介入をすることを避けたいといった懸念に発しており、CDEJ とは何者か、その技量を量れなかった当時の状況からすれば、致し方ないことであつたらう。

しかし今、CDEJの活動の場とその役割は大きく変貌しようとしている。糖尿病をはじめとする慢性疾患の診療は、地域包括ケアシステムの中核に位置付けられ、病院から在宅診療に至るシームレスな連携の中で行われるものとされている。これに伴って、CDEJは専門病院から患者宅まで、多様な医療現場に出なければならぬ。しかも、患者に近づくほど、医師の手から離れ、自身の裁量で決しなければならないことが増えるのである。私は規則の「医師の指導の下」は、「医師と共同して」に拡大解釈が必要と考えている。社会はそれを求めているとも言える。その中であって、臨床検査技師は、言わば共通言語となる臨床検査値の精度管理と社会啓発に貢献が期待されている。CDEJのライセンスは、こうした責務に耐えうることを示す証となるものである。今後CDEJが担う役割は、一層大きなものとなるであろう。その要請に応えることのできるCDEJを育成することが、認定機構の使命と考えている。

連絡先電話番号 0422-47-4848